

アーティストックス通信

No15
「継続」号



もう一回学ぶ もう一回気づく

昨年引き続き、今年も第4回伊東掃除に学ぶ会の年次大会に参加してきました。今年も伊東市立南中学校での開催です。(写真は、昨年実施の時の物です)インフルエンザが蔓延しているこのタイミングのため、あまり多くの人を集めないと聞いていましたが、それでも、百数十人も大きな大会となりました。代表世話人の白鳥さんたち初め、伊東の人たちが周りの応援を集めているのが感じられます。続



けることって大切ですね。私は、掃除に学ぶ会に参加するようになって5年ほどたつのですが、ある時、私の尊敬する経営者に、「どうして、外に行った時だけ掃除するの？自分の会社で実践してナンボじゃないの？」と言われました。なるほどその通りだと思つたので、昨年の十一月より、毎朝、会社の掃除を始めました。その掃除は、社員も一緒にやってくれる外掃除に変わりました。

コンビニで本を買う
最近、よくコンビニで本を買います。Hな雑誌じゃないですよ！自己啓発本やビジネス書です。本棚のスキに、ちよこつと数種類おいてあるのですが、意外と面白い本が取り揃えてあります。そもそも、コンビニというのは売れ筋商品しか置いてありません。いまの話題・志向の宝庫です。私がコンビニに行くのは、それを学ぶためなのです！云わば、マーケティングです！けっして、お菓子を買いたくて行つてるわけじゃありませんよ！(笑)

主としては自社のオフィスビルの周りのごみ拾いですが、夏になると草取り、秋には落ち葉掃除などにもなります。仕事の関係などで時々やらない時もあります。社員たちが一緒にやってくれるおかげで何とか続けられています。一人だったら、とつくにやめていました。

それに近所で、毎朝のようにお会いする人たちと、すれ違いざまにあいさつを交わすのが、ちよつとした楽しみになってきています。最初はあいさつされて戸惑う人も、何回も繰り返していると、笑顔であいさつを返してくれるようになります。その時の清々しい気持ちには、体験してみても初めて分かりました。

街はごみで汚れています。毎日ごみ拾いをしていっていると、あるところからゴミが減ってきたのを感じます。残念ながら、煙草の吸殻だけはなかなか減りませんが、いつか、街も人もきれいで明るくなつてほしいと思います。

三つの幸せで気づいた価値観

掃除とともに、もうひとつ続けていくことがあります。何年も前から『ひとつ拾えば、ひとつだけきれいななる』という本を毎朝一項目みんなと一緒に音読しています。その中に、『三つの幸せ』という話があります。

- ① 人の幸せには三つある。それは、してもらええる幸せ
- ② できる幸せ
- ③ してあげる幸せ

赤ちゃんが泣いたら、抱っこしてもらえ、一人で自転車に乗れるようになる、人に優しく親切にするなどです。その話を何度も読んでいて、気づいたことがあります。それは、してもらええる幸せは、してもらった幸せを味わうものであって、求めすぎないほうがいいし、大人になるに従って、してあげる幸せを求めたほうがいい。

つまり、なにかを人にしてもらつて、「私はなんて幸せなんだろう！」と感じるのは本当に幸せ。でも、だれかに何かをしてもらいたいと強く求めるほど、それは遠のきます。してもらえないことへの不満への第一歩で、その道は、不幸へと続いてます。

私は、このことに気づいてから、一つの判断基準ができました。社員から提案(時には不満)が出てくる時、それが『改善のために自分が〇〇をした』という内容であれば、まずはやってみようと、大体許可します。反対に、『(自分以外の誰かに)〇〇をしてもらいたい』という意見には、かなり慎重に考えます。それは、前者は、誰かのためにしようとしているのに対して、後者は、自分がしてもらいたいことが多いからです。「〇〇してほしい」と要求することは、相手の時間とお金か、またはその両方を奪います。私が大切にしている判断基準です。

この通信は、長岡または当社社員がご縁をいただいた方にお送りしています。通信不要、送り先が違ふ、バックナンバーを読んで下さる、などございましたら、下記までご連絡ください。メールで受け取ることもできます。

笑顔でいれば好かれるし
怒ってばかりいたらキラわれる
それだけなんだよ

笑顔で愛のある言葉をしゃべろうよ
今、自分の目の前にいる人たちのために、
全力を尽くす

愛のある顔と

愛のある言葉をしゃべる
これに全力を尽くす

斉藤一人

(銀座まるかん創業者)